

平成 30 年度第 1 回 区民版子ども・子育て会議

【世田谷の子ども・子育て支援施策、何が進んで、何が積み残ってるの?!

～平成 32 年度からの 5 年間を見据えて～】

日時：2018 年 7 月 6 日（金） 18:30-21:00

会場：成城ホール 4F 集会室 D

申込：70 人 / 参加： 人（当日欠席 名、当日参加 名）

(松田)この「区民版子ども・子育て会議」は、「子ども・子育て会議」の裏版として、区民と関係者が一緒になって議論できる場です。思えば 5 年前、新たな計画づくりに、区民も参画していこう！的な決起集会から始まり、区役所のみなさんとともに、第 2 期世田谷区子ども計画の策定にあたって「あーだこーだ」と考えてきました。何が進んで、何が積み残っているのか。新たに発生している子どもや子育て家庭をめぐる課題はなにか。私たちはそこにどう関わっていくのか。未来的な対話の場にしたいと思います。

今回、世田谷区から各部長にもご参加いただきましたので、ご挨拶いただきます。

世田谷保育担当部 知久部長

待機児童が長らくの課題だったが、ようやく今年度 10 年ぶりに 500 人を下回った。地域の皆さんのおかげだと感謝しています。今回はご招待いただき参加しました。自分の子育てくらいしか経験がないが、皆さんの意見を参考にしたいと思う。

子ども・若者部 渋谷部長

7 月に部長になり 1 年経つ。子ども部は若者部と一緒にだったが、保育の部分を担当し、現在は待機児童対策や児童相談所の設立を進めている。子ども計画も幅広く担当したが、まだまだつなぎあわせで落ちている部分があり、お気づきのことなどあればご意見いただき、次につなげたいと思っている。

子ども・若者部 表版子ども・子育て会議事務局 堀込課長

以前生活支援課の課長だった頃から、こうした世田谷区の活動がすごいと思っていたが、今回ここにご縁あって参加した。楽しみにしている。

ここは一緒に考える場。抗議の場ではないので、どうやったらうまくいくか、自分たちのできる場はないか考える場です。よろしく願いいたします。

(区) 5 年前区民版を立ち上げて、ともに運営してきた。皆さんと子どもにとって育ちやす

い街づくりのためにやってきた。

当事者のご意見を聞きながら、「こういうところが変わった。こういうところが進んでいる、積み残ってる」といったことを踏まえ、それぞれが何ができるか考えていきたい。

初参加の方は？（多く手があがる）

「ようこそワールドへ？」

区の計画の現況についてご説明します。（資料へ）

10年間子どもが増え続けている。

保育の課題がこれまでであったが、次は学童大丈夫？という状況

出生率は10年前から2000人増えている。

出生率の像が、こどもの数を増やしている。

晩婚・晩産化が進んでいる。女性の社会進出が進み、高学歴化し、企業を長く務めた後地域にいくと孤立感が強くなることがある。

行政の相談窓口がハードルが高い中、地域社会の中で「子育ての悩みは当たり前だよ」といってもらえる環境が必要。

乳幼児の養育状況の推移

0～2歳で地域に関わりがもてない時期に不安があるため、フォローする施策が必要。

保育園は2.2倍。

待機児童が486人に減っているが、いまだ解決まではいっていない。

児童相談所の開設があるが、それですべて解決ではないが、

子ども家庭支援センターへの相談は増加傾向。

世田谷区子ども計画（第二期）

「基本理念」抜粋

子どもが次代の担い手ではだめ。今を一生懸命生きているところに目をあてるべきとして、その文言を入れた。

「子どもがいきいきわくわく育つまち」

大人目線の本案から、子ども目線が加わりこのキーワードに決まった。

重点政策を受けて取り組んだのが次の2ページの施策。

世田谷版ネウボラ H28年7月～  
行政・地域・医療が一緒に取り組む

子ども・子育て支援新制度の施設・事業

法制定・法改正に基づく区の状況変容

保育課 渡辺係長より

「量的拡大と質の向上を両輪に考える保育施設整備について」

保育課といえど、不動産業のようなこともしており、保育園用の土地を回して保育園設立を進めている。マーケティングもがんばりながら保育園を設立している  
パーソントリックの分析も行い、区民の傾向も分析し予測して設立。相当過酷な現場。

不動産を探し、JA・不動産に入り浸り交渉している。

それらの活動が実を結びつつあり、やっと待機児童が500人を切った。

世田谷区のお金持ちを交渉して、保育の担当で11年。保育園の話題提供のために資料を作成した。(資料参照)

どうしても保育の「質」は大事だと思っている。

他の自治体の保育園事業者に時々ディスられながらも、園庭の有無などもこだわっており、「なるほど!せたがやのほいく」という冊子も作成して理解を呼び掛けている。

保護者の皆さんも保育・教育にもう一步踏み込み、園を選んでいただきたい。

保育園を作る全体的視点をもって、管理しているということをお伝えしたい。

皆に頼みたいこと

保育園作る際、説明会を開催すると、必ず総論賛成・各論反対であるにもかかわらず、反対者ばかり集まる。

保育園が近隣にできることは悪いことではない。良いこともある。地域全体・活性化につながることで、当事者意識をもって参加してほしい。説明会には反対者ばかり集まるが、保育園設立賛成の人も交じってないといけない。そういう方がいづらい環境なのを見逃してはいけない。賛成の方にも、地域の人として地域で子育てすることはどんなことなのかを投げかけてほしい。

次の5年間に向けて、何を話したいか、来ている方の関心ごとを話す場を作りたいと思います。黄色い紙に「マグネット」形式で、関心のあるテーマで7・8人グループを作って

ください。仲間探しスタート！

(グループ作成後、30分議論)

どんな話がでたか1分で発表してください！

### ○テーマ「子ども中心の社会づくり」

鳴き声と通報について話題に挙がった。

通報は助けになる。見つけるきっかけになる。うるさいと黙らせるのではなく、地域で見守る。

子ども食堂は解決策の一つ。夕方からの子育てが憂鬱な人は多いので、夕飯はみんなで作って食べ、実家ご飯のような場になればよい。

夫が9時に帰ってるようではだめで7時には帰らないと意味がない。

自分自身と運営者のマネジメントどちらも大事。

### ○テーマ「子どもの貧困」

まちづくりには、現状の把握が必要。

つかんだデータをもとに、効率よく子育て支援をすることができるのでは。

他の自治体からの意見や施策を参考に、行政と区民の距離を近づけることが大事。

子どもを中心としたまちづくりのためには、意思決定できる年齢の子どもの場合は仲間に入れて話し合うべき。区ならではの市民活動の共有も必要。

### ○テーマ「周りとのつながり 近所とのつながり」

地域とのつながり グループ同士のつながり、町会、PTA、保育施設（認可・認可外）

母親とPTAのつながり 若い母親が地域とのつながりを求めていることがあり、地域の大切さをどう伝えるかが課題だが、結局、粘り強くやっていくことが一番大事という意見に。

つながりを欲している人に門戸を開いているが、情報が到達しないので、どうしていったらよいか。

地域と子どもを真ん中につなげるために、文化活動、地域に長くいる人とつながることが大事→キーワード「文化活動 例えば人形劇など」相談ごとがしやすい地域をどう作るか

### ○テーマ「子どもの自由な遊びの環境」

乳幼児 →親が外遊びの仕方がわからない→おでかけひろばでつながり、地域とつなげる工夫ができないか。

幼稚園・保育園ももっと親同士をつなぐ役割を担える。

小学生が遊べてない。集合拠点のような公園や場所があったら良い。

親同士が仲良くなる場が広がると、子どもが遊べる場も広がる。

BOP に囲いすぎると遊びが狭まるので、どう広げていくか。

### ○テーマ「若者の居場所」

公立小の中に居場所となるカフェを作りたい

学校の中に居場所をつくることで、いろんな子が来やすくなる

学校では会えない大人と出会える

課題：18 歳以降のサポートが切れてしまうので、どうしていくか

### ○テーマ「保育園のありかた」

保育担当部長、保育士、企業主導型保育園、ひろば関係者がいた。

緊急・一時保育が足りていない

一時保育 2 パターンが必要。

① レスパイト理由を問わない一時預かり

② 子どもの育ちに合わせて預かる（例えば週 3〜とか）

保育園に入るために働くという人が多くいる。週何回からでも使える環境を整えるべき。

保育の質については、乳幼児教育センターができることについての確認の場に教育委員会の方にもがんばってほしい。

### テーマ「地域のつながり」

何かつらいことがあったときに、どこに相談するか

夫にあまり何も言えていない人が多い

ドイツは保育サポートがある

若くして望まない妊娠をした方が誰にも相談できない場合がある

相談を受ける場を広げるには、という話に及んだ。

### ○テーマ「保育・教育の質」

待機児童が減ってきた中、保育園などの質が選ばれる時代に。

誰にとっての質なの？を考えていかないといけない。

箱の見た目、面積。人数以外に、子ども 1 人ひとりや保育士、親の関わりを園がどう考えるのか。

子どもを見る側にも余裕が必要。長く働き歴史・理念を積み重ねていかないと質が向上しない。

保護者がいくつもの園を見比べられない中、情報どう与えるか

入園すれば御の字というところから、今後どうなるのか。

無償化を進めても、結局借金は子どもたちが担う。無償化万歳ではない。子ども見る人や施設にお金を回さないと。幼保・小中へのつながりも考えていくべき

### ○テーマ「教育と福祉の連携」

グループの半分が区役所の方だった。独特の雰囲気だった（笑）。

障害支援センター 障害の保護者へのコミュニケーションの取り方が大事。

医ケア児は、BOP、学校、保育園でも受け入れが始まった。

グレーゾーン、発達障害の子どもへの支援についても話が挙がったが、どうなるのかもっと話したかった。

-----

ここからは妄想タイム

自分たちには何ができるかを考えよう！

言うとな形になるので、言っておきましょう。

（20分語り合い。1分間の発表）

### ○テーマ「保育園の在り方」

保育恵と地域を連携させる 一時保育を増やす

待機児童多いが、全員が保育園に入れる社会にする

### ○テーマ「若者の居場所」

どの辺につくるか 桜丘中がいいのでは？

運営は児童館、青少年支援センター、NPO だったり

昼や夜ごはん会もさぼーとできたらよい

### ○テーマ「子どもの貧困」

学校食堂

わかりやすい場所として小学校しかない

開放して父親をターゲットにつながりひろげてゆく 妻を喜ばせることを目的に

### ○テーマ「子どもの自由な遊びの環境」

プレーワーク 自由なあそび 主体性を広げる知識  
保育士、教師、親たちに理解を広げる  
学校の先生だけでなくプレーワーカーを設けては

### ○テーマ「子ども中心の社会づくり」

夫婦支援課をつくり、パートナーシップを育てる。

乳児検診は夫婦で来ることにし、検診の間夫婦でヨガをしたり、夫婦でネウボラ面接を受けられるようにする。

カップルにメールが届き、世田谷の子育て支援資源がわかりシミュレートができる仕組みづくり。

### ○テーマ「保育の質」

保育ネットなど、園同士のつながりはあるが、情報を持ってない人へのアナウンスをどうするか。情報を親が選ぶのは可能なのか。

子どもの権利というのがあり、意見表明権 自由に意見をいえる

泣くことも子どもの表現の一つ

「子どもを1人育つには一つの村が必要」というアフリカの諺がある。

保育士として、保育園が閉じたり、孤立せず、地域で間借りし合うようになると、育てる側も楽になる。

### ○テーマ「教育と福祉の連携」

区の職員が多かったので、メンバーからの要望が多くなってしまった（笑）。

区民としての妄想は、いろんな業種がいる中で共通点があった

グレーゾーン・発達障害だとしたら、相談窓口の名前にその言葉を入れると相談しにくい。

どうやって相談につなげるのか。

カフェ、子ども食堂が機能できるのではないかと考えている

BOP の中でも、地域で受けた傷について保護者が訴えてくることもある。そういう人を見て、ゆっくり話せて支援につなげる場があるといい！

教育と福祉との連携はまだ話ができなかったが、教育現場の先生や BOP 職員の専門性がもっとあったらよい。母が1人で抱えるのではなく、専門的な人が支えてくれたらよい。

### ○テーマ「地域でのつながり」

全地区で実家ご飯を実現したい。

通りで面したガレージで、オープンカフェのようにしてはどうか。

子ども食堂のネットワークができていくとよい。サポート体制も。

公園などに禁止ルールが多い。社会がほっておかないために、子どもたちのやりたいこと

を実現するための舞台ができればいいのではないか！

○テーマ「子ども中心の社会づくり」

子ども版子ども・子育て会議を実現する！

子どもへの分かりやすい情報提供が大事。

論理的事実だけでなく、文化芸術も交えていく。例えば、アートスタジオのような。

サイレントマジョリティの意見も反映する。

LINEなどのアプリを使って、子どもと相談できる窓口で専門家との接点をつくる

行政と区民が対立構造でない場をつくることが大事。

隣に醤油を借りられるような地域づくりを目指したい。

以上